

～多様性広がる新しい金谷公園～



公園区域・公園風景



公園の現状

1998年4月1日に開設された都市公園「金谷公園」は、大型遊具や水と親しめる親水噴水などが設置され、たくさん子どもや家族連れに利用されているほか、犬の散歩、ウォーキング、小学校のマラソン大会、保育園や幼稚園の遠足など多くの方々に利用されています。

また、金谷公園を中心として、むつ総合病院、下北文化会館、屋内遊戯施設「ムチュ☆らんど」、小学校などの公共施設が集積し、むつ総合病院新病棟の建設、文化会館の一部リノベーションによる下北地域初の4年制大学キャンパスの設置、都市公園内に認定こども園が設置され、新たな都市拠点となりつつあります。

さらに、クラフトイベントやKAMAFUSE MARKETの開催など、これまでなかった新しいにぎわいが生まれ、様々なボランティア団体や市民の皆様の協力により公園施設のペンキの塗り替えや公園を彩る植樹・花植えが行われるなど、公園をハブとしたコミュニケーションの創出が拡大しています。

公園の課題

公園開設から30年近くが経過し、トイレや東屋などの公園施設の老朽化や園路の破損などが見受けられ、改修が必要となっているほか、公園全体においてバリアフリー化が必要となっています。

また、地形上、雨水が集まりやすい場所となっていることから、ゲリラ豪雨への対策が必要となっています。

さらに日陰・休憩場所・駐車場の不足が課題となっています。



こどもまんなかの方針

公園遊具の新設や更新により、大型遊具をはじめとした多様な遊びができる公園として、日常的に子どもたちの笑顔や笑い声にあふれる楽しい公園づくりを推進することで子育て環境の向上を図ります。

さらに、ユニバーサルデザインやインクルーシブデザインに配慮した公園づくりを推進します。



景観形成の方針

園内を彩る植物や公園から見える釜臥山などの自然風景とむつ総合病院や下北文化会館などの周辺施設が調和し、公園で活動する人や行き交う人が紡ぎ出すにぎわいや交流を金谷公園における景観とします。

公園のシンボルである噴水のライトアップや、公園照明灯の増設等による光の創出により、むつ市の夜景「光のアゲハチョウ」が持続的に輝く明るいまちづくりを推進します。

また、公園改修にあたって無電柱化による良好な景観形成を推進します。案内サイン等の共通となる施設はデザインの統一を図り、一体的な景観形成を進めます。

～多様性広がる新しい金谷公園～



公園整備の方針

- 多様な遊びにつながる公園遊具の充実化を進めます。
- インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザインを進めます。
- 雨水調整機能と生物多様性をもったグリーンインフラを整備します。
- イベントに対応する広場づくりを進めます。
- EVスポットやソーラー充電設備の設置等を進めます。
- 大人も楽しめる健康遊具の整備を進めます。
- 公園に不足している日陰や休憩場所等の公園施設を充実化します。
- こどもマラソンなども可能な公園とします。
- 施設を結ぶ導線は夜間でも明るい歩行空間とします。



公園の活用方針

クラフトイベントやKAMAFUSE MARKET、周辺施設と連携した公園利用などの取組が今後も持続可能となるように民間活動を支援し、金谷公園Digital1.0のもと、社会実験の実施や都市公園法に基づく各種制度の活用等、新たな公園の活用方法に取組み、公園の魅力・利便性の向上を図ることで、交流の拡大とにぎわいの創出を目指します。



みどりの整備・保全の方針

緑の少年団、国際ソロプチミストむつ、ライオンズクラブ、認定こども園、大学などの民間団体等との協働により、様々な木や草花にふれあえる空間づくりを進め、公園内には【市民の森】や【市民の花壇】のゾーンを設けることで、市民による市民のためのみどり豊かな公園を目指します。また、周辺エリアを含め、周辺関係者などとの協働による花とみどりのまちづくりを推進します。



公園整備スケジュール

事業名	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)	2026年 (令和8年)	2027年 (令和9年)	2028年 (令和10年)
金谷都市拠点地区 都市再生整備計画	公園整備(Ⅰ期)			公園整備(Ⅱ期)	
	遊具 大階段広場	南側広場	噴水	園路・広場	園路・広場 遊具

# 公園整備計画イメージ（北側）



# 公園整備計画イメージ（南側）

